

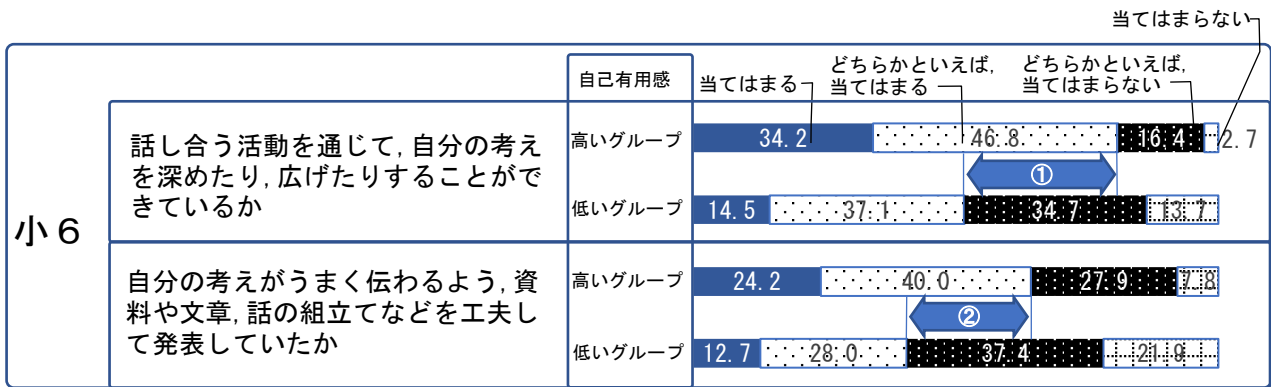
「自分には、よいところがある」と考える児童生徒には、教科の平均正答率が高い傾向が見られますが、本年度の調査では、「自分によいところがある」と回答した児童生徒は、小・中学校ともに全国平均を下回っており、改善の余地があります。

自己有用感の高いグループと低いグループ^(注)を比較したところ、小6については、「話し合い活動を通じて自分の考えを広げ深めることができるか」の問いに対して肯定的な回答をした割合には約30ポイントの差がありました(グラフ中の①)。そして、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の問いについても約24ポイントの差がありました(同②)。

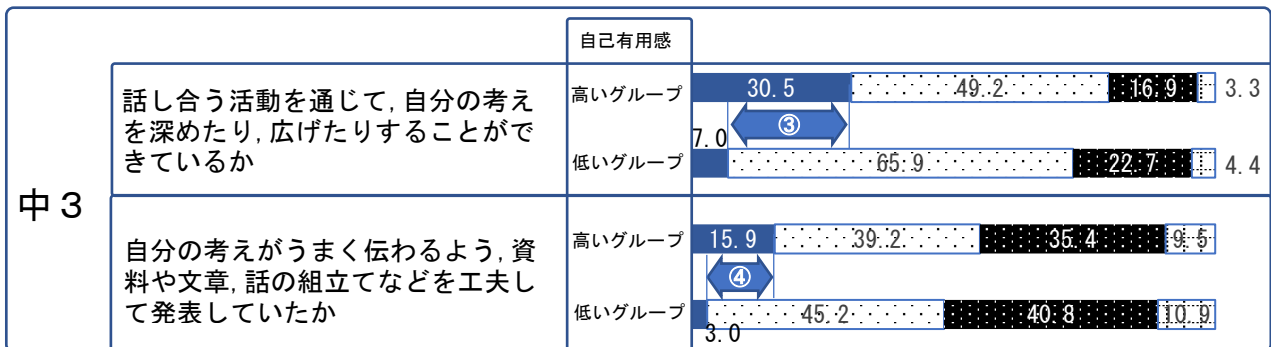
(注)

自己有用感が高いグループ：児童生徒質問紙調査の質問5「自分には、よいところがあると思う」に、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答したグループ

自己有用感が低いグループ：同質問に、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」と回答したグループ



中3においては、「話し合い活動を通じて自分の考えを広げ深めることができるか」、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」の問いに対して、「当てはまる」と回答した割合には、それぞれ約24ポイント、約13ポイントの差がありました(同③、④)。



自己有用感の低い児童生徒には、話し合い活動で自分の考えが受け入れられたり、自分の考えを適切に伝えたりする経験を積ませることが大切です。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」が有効であり、その実現を通して、自分の考えや気持ちを互いに表現できる学習集団づくりが必要です。児童生徒の自己有用感を育む視点からも、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に積極的に取り組みましょう。

メモ

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the 'メモ' header. It is intended for handwritten notes.